

事業名		道路改築		路河川名等	(国)152号				
事業毎の通番		1	市町村名	茅野市	箇所名(ふりがな)	白樺湖(しらかばこ)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強いインフラ等の整備の推進 3-1 ④ 高規格道路等、道路ネットワークの整備の推進 【産業・観光および交通拠点へのアクセス性の向上】			SDGsの関連目標				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 長野県広域道路交通計画			関連する事業プロジェクト	街なみ環境整備事業 「レイクリゾート構想」蓼科・白樺湖エリア			
	現状と課題	一般国道152号は、上田市から茅野市を經由し、静岡県浜松市に至る幹線道路であり、第一次緊急輸送道路に指定されている重要路線である。また、主要観光地である白樺湖には、多くの観光客が訪れるが、事業区間は道路線形が悪く、交差点部の視距不良により、安全な交通に支障をきたしている状況にある。							
	事業目的	道路整備により課題を解消し、白樺湖に訪れる観光車両や災害時における緊急車両等の安全で円滑な走行空間の確保を図ることを目的とする。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2029年度(令和11年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	道路改築工 延長0.3km 幅員6.5(13.0)m				800,000	360,000	-	396,000	44,000
事業概要									
	 至 茅野市街			 至 上田市					
事業効果	主な受益対象	自動車:5,000台/日(計画交通量)							
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少 産業・観光の振興、災害に強い道路ネットワーク				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.4		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	第一次緊急輸送道路に指定されている幹線道路であるとともに、地域の観光産業を支える道路として、将来にわたり利用される。							
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和4年7月に発表されたレイクリゾート構想において、白樺湖観光センター周辺の整備が提案されている。この面的整備に合わせた道路としての課題解消のため、白樺湖活性化協議会から道路改良の要望がある。							
	事業説明等の経緯	白樺湖観光センター周辺エリアビジョンの策定ワーキンググループに地域住民が計画に直接参加し、地域からの要望を元に整備方針を検討するなど、道路事業の整備手法についても、合意形成が図られている。							
評価結果	所管課の意見	幹線道路及び緊急輸送道路であり、かつ観光地へのアクセス道路でもある重要な道路であるため、道路改築により安全で円滑な走行空間の確保が必要であることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	4.3
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		道路改築		路河川名等	(主)松本塩尻線、(一)新茶屋塩尻線				
事業毎の通番		2	市町村名	塩尻市	箇所名(ふりがな)	片丘～棧敷(かたおか～さじき)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強いインフラ等の整備の推進 3-1 ④ 高規格道路等、道路ネットワークの整備の推進 【産業・観光および交通拠点へのアクセス性の向上】			SDGsの関連目標				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 通学路交通安全プログラム			関連する事業プロジェクト				
	現状と課題	当路線は、松本市南部と塩尻市中心部を(一)田川の右岸に沿って南北につなぐ幹線道路であり、長野自動車道塩尻ICや国道20号とJR広丘駅や南松本駅周辺の工業、商業地域のアクセス道路として利用されている。 当事業区間は人家が連坦し幅員狭小なうえ見通しが悪く、交通事故が多発しており、通勤時間帯には渋滞が発生している。また片丘小学校の通学路に指定されているが歩道がなく、通学児童が危険にさらされている。							
	事業目的	当区間のバイパス整備により、円滑な交通と安全性を確保し、産業・観光および交通拠点へのアクセス性の向上を図る。また、通過交通をバイパスに転換し、現道の安全性向上を図る。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	道路改築工 延長2.2km 幅員6.5(10.25～12.5)m				1,100,000	495,000	-	544,500	60,500
事業概要									
									
	現道の渋滞状況								
	通学の状況								
事業効果	主な受益対象	自動車: 7,300台/日(計画交通量)							
	期待される効果	走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少 産業・観光の振興				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	2.8		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	産業・観光および交通拠点へのアクセスを担う幹線道路であり、将来にわたり利用される。							
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	塩尻市長及び地元区長(中狭区・南熊井区・北熊井区)から松本建設事務所長、建設部長に要望あり。							
	事業説明等の経緯	令和2年度に地元住民と関係地権者に対し意見交換会を6回実施し、事業実施及びルートについて合意形成済。 令和3年度以降も定期的に地元役員に説明を行っており、地権者も含め事業実施の同意を得ている。							
評価結果	建設部公共事業評価委員会の意見	工業団地等へのアクセス道路となるが、人家連坦であり交通事故も多発しているため、バイパスにより通過交通を転換し、円滑な交通と安全性を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						妥当性評価※	優先度評価※
	長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。						○	4.6
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	県の評価案は妥当		評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		道路改築		路河川名等	(国)148号				
事業毎の通番		3	市町村名	北安曇郡小谷村	箇所名(ふりがな)	塩水(しおみず)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強いインフラ等の整備の推進 3-1 ④ 高規格道路等、道路ネットワークの整備の推進 【防災拠点へアクセスする重要物流道路や代替・補完路の機能強化】			SDGsの関連目標				
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 長野県広域道路交通計画			関連する事業プロジェクト				
	現状と課題	一般国道148号は第一次緊急輸送道路、および重要物流道路の補完路であり、地域の産業、観光、経済及び生活を支える重要な幹線道路である。事業区間は交通量が多く、JR南小谷駅や村役場等への唯一のアクセス道路であり、小谷小学校および小谷中学校への通学路でもあるが、道路線形が悪く、スリップ等による交通事故が度々発生している。							
	事業目的	道路整備により課題を解消し、快適で安全な道路空間の確保と、重要物流道路の補完路、緊急輸送道路における交通の安定性・確実性の向上を図ることを目的とする。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	道路改築工 延長0.7km 幅員6.5(12.0)m				2,500,000	1,375,000	-	1,012,500	112,500
事業概要	<p>平面図</p> <p>道路改築工 L=0.7km</p> <p>事故発生件数：25件 (H29～R3)</p> <p>✕ 主な事故発生箇所</p>								
	<p>スリップ事故による通行止めの状況(H29.12)</p>			<p>スリップ車両による交通渋滞(R5.2)</p>			<p>標準横断面</p> <p>全幅 12.00</p> <p>歩道 2.50   1.25   車道 3.25   車道 3.25   1.75</p>		
	<p>主な受益対象 自動車：7,500台/日(計画交通量)、歩行者：48人/日(現況交通量)</p> <p>期待される効果 走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少、生活環境の改善、災害に強い道路ネットワークの構築</p> <p>費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用 1.1</p> <p>人口減少を踏まえた将来の活用見込み 第一次緊急輸送道路に指定されている幹線道路であるとともに、小谷村中心部へのアクセス道路、小谷小学校および小谷中学校への通学路としての機能を担い、将来にわたり利用され、持続可能な拠点形成に寄与する</p>								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	地域住民にとって唯一の幹線道路であるが、交通事故が多発し、通行止めがたびたび発生していることから、安全な走行に向けた要望が毎年出ている。(国道148号整備促進期成同盟会：平成28年度以降毎年要望あり)							
	事業説明等の経緯	令和5年2月に小谷村(議会等)、3月に地元説明会を実施し、事業への理解が得られている。							
評価結果	建設部公共事業評価委員会の意見	緊急輸送道路、重要物流道路の補完路である重要な幹線道路であるが、交通事故が多発しており、道路改築により快適で安全な道路空間の確保と交通の安定性・確実性の向上が必要であることから、事業着手が妥当と判断する。					妥当性評価※	優先度評価※	
	長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。					○	4.6	
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	県の評価案は妥当	評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

事業名		道路改築		路河川名等	(主)坂城インター線				
事業毎の通番		4	市町村名	埴科郡坂城町	箇所名(ふりがな)	中之条～網掛(なかのじょう～あみかけ)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強いインフラ等の整備の推進 3-1 ④ 高規格道路等、道路ネットワークの整備の推進 【産業・観光および交通拠点へのアクセス性の向上】		SDGsの関連目標					
	関連する計画や重点施策	信州みちビジョン 長野県広域道路交通計画		関連する事業プロジェクト	国道18号坂城更埴バイパス整備 坂城町第6次総合計画				
	現状と課題	(主)坂城インター線は、上信越自動車道坂城ICと一般国道18号を結ぶ幹線道路であり、第一次緊急輸送道路にも指定されている重要な路線である。現在、千曲川左岸では一般国道18号坂城更埴バイパスが平成29年度から工事着手しており、千曲川左岸からテクノさかき工業団地、テクノさかき駅及び坂城インターなど千曲川右岸へのアクセス性の確保が課題となっている。							
	事業目的	一般国道18号坂城更埴バイパス事業に合わせて当該箇所を整備することにより、千曲川左岸からテクノさかき工業団地、テクノさかき駅及び坂城インターなどへのアクセス性が向上し、地域生活や産業を支える新たな道路ネットワークの構築が図られる。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	道路改築工 延長0.9km 幅員6.0(14.0)m				6,000,000	3,000,000	-	2,700,000	300,000
事業概要									
	 <p>国道18号の渋滞状況</p>			 <p>国道18号バイパス整備状況</p>			 <p>標準横断面図</p>		
	<p>主な受益対象 自動車:7,100(計画交通量)</p> <p>期待される効果 走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少 産業・観光の振興、災害に強い道路ネットワークの構築</p> <p>費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用 1.2</p> <p>人口減少を踏まえた将来の活用見込み 第一次緊急輸送道路に指定されている幹線道路であり、将来にわたり利用される。</p>								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	新国道上田篠ノ井間建設促進期成同盟会及び坂城町国道バイパス、県道整備期成同盟会から建設部長、知事へ要望あり。							
	事業説明等の経緯	令和4年度に地権者を対象とした説明会を実施し、事業目的及び整備手法について合意形成済。							
評価結果	建設部公共事業評価委員会の意見	緊急輸送道路であり、千曲川左岸からテクノさかき工業団地、テクノさかき駅及び上信越自動車道坂城インターなどへのアクセス性を確保するため、一般国道18号坂城更埴バイパスと一体となって新たな道路ネットワークを構築する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				妥当性評価※	優先度評価※		
	長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。				○	4.7		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	県の評価案は妥当		評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)